

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 28 日現在

機関番号：24402

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20730234

研究課題名 (和文) 近・現代インドにおける工業化と生産要素取引制度の生成

研究課題名 (英文) development of economic institutions for input/output transactions of industrial undertakings in India in the first half of the 20<sup>th</sup> century

研究代表者

野村 親義 (NOMURA CHIKAYOSHI)

大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：80360212

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：インド、取引制度、植民地、企業組織、イギリス、労務管理、工業化、経営史

## 1. 研究計画の概要

申請者の最大の研究目的は、近代的製造業が必要とする質・量の労働力・長期資金といった生産要素の需給を調整する取引制度が、植民地期から計画経済期に至る 20 世紀前半のインドにおいてどのように生成したかを、当時の 3 大近代的製造業 (ジュート紡績業、綿紡績業、鉄鋼業) を舞台に、企業レベルの資料に基づいて明らかにすることである。その上で、生成した要素取引制度は、これら制度を採用した同時期の各企業の発展にどのような影響したのかも明らかにする。

## 2. 研究の進捗状況

本研究の作業のうち、特に重要なものは (1) 史・資料の収集作業、(2) 論文執筆作業、(3) 研究会等での報告である。

(1) の史・資料の収集作業に関しては、これまで 3 年間、毎年インドもしくは/および、イギリスの公文書館、図書館に赴き、各年 2 週間程度の史料収集作業をおこなってきた。特に 2008 年度に行ったボンベイのマハラシュトラ州立公文書館での史料調査は、ボンベイ綿紡績業に関する詳細な一次史料収集に大きく役立ち、その後の研究推進上、極めて重要な作業であった。また必要に応じて、京都大学など、国内での史料調査も行った。

(2) の論文執筆作業に関しては、これまで、販売制度、労務管理制度など近代的製造業の取引制度の発達そのものや、取引制度の発達に広範な影響を与えた植民地政府の経済政策に関する 4 本の英文査読つき論文(後述研

究成果参照)を公表し、うち 2 本は近現代アジア史・インド史の研究領域において国際的に極めて評価の高い学術誌に掲載された。現在は、更なる論文掲載を目指し、複数の英文論文を執筆中である。なお、このほか 3 本の日本語原稿を発表した。

(3) の研究会等での報告に関しては、これまで次の 3 つの報告をおこなった。

①「19 世紀の産業資本の形成と都市建設」、南アジアのメガ・シティ研究 (1) ムンバイの歴史的形成と現在、主催：総合地球環境学研究所「メガシティが地球環境に及ぼすインパクト」プロジェクト、2010 年 10 月 29 日 (金)、京都大学

②「南アジア企業論：経済史研究の立場から」、現代インド地域研究京大拠点 研究グループ 1、第二回定例研究会、2009 年 11 月 14 日、京都大学

③「植民地期インドの金融統計：基本的な統計の概要と工業金融統計整備の可能性について」、アジア長期経済統計 第 4 回 インド巻研究会、2009 年 5 月 9 日、学術総合センター (神田・一橋講堂)

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

史料収集作業に関しては、各回の潜在は決して長いものではないが、集中的な史料収集をおこなってきた。特に、これまで利用されることのなかったボンベイ綿紡績業の企業内部史料を発掘することができたことの意義は大きい。また、企業活動を取り巻く政府の

経済・金融政策に関する一次史料も、広範に調査・収集できた。これら作業は、当初予定していた作業成果より、若干ではあるが、満足のいくものであった。  
論文執筆作業に関しては、過去3年の間に4本の査読つき英文論文を発表することができ、当初の予定通りの成果が挙げられている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

(1) 現在、20世紀前半のインドにおける産業金融の有様、持ち株比率と企業統治の関係、株式市場の生成、などに関する論文を執筆、改訂中である。このうち何篇かを、本研究最終年度である今年度、査読つき論文として、国際的に著名な雑誌に投稿したい。そのために必要であれば、海外で更なる史料調査を行いたい。

(2) 加えて、20世紀前半のインド鉄鋼所の発展と、発展を支えてきた取引制度の関係に関し、現在、これまで書きためた論文を基に、一冊のモノグラフを執筆中である。研究年度期間内にこのモノグラフの骨組みを完成させたい。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

① NOMURA Chikayoshi, 'Selling steel in the 1920s: TISCO in a period of transition', *The Indian Economic and Social History Review*, 48(1), pp83-116, March 2011 有

② NOMURA Chikayoshi, 'Why Was Indian Steel Not Exported in the Colonial Period?-The influence of the British Standard Specification in limiting the potential export of Indian steel in the 1930s', *Modern Asian Studies*, First View Article, Published online (現在はケンブリッジ大学出版会ホームページ上のみで掲載。雑誌掲載日時は未定) 、pp1-38 23 Dec 2010、有

③ NOMURA Chikayoshi, 'Development of Labour Management System of Industrial Enterprise in Colonial India: A Case Study of the Tata Iron and Steel Company', *International Journal of South Asian Studies*, 3, pp101-145、2010、有

④ NOMURA, Chikayoshi, "Influence of the Evolution of Corporate Organization on the Progress of Large Scale Business Enterprise of India in the 19th Century", 『人文研究』、大阪市立大学大学院文学研究科、61巻、pp19-46、2010、有

[図書] (計1件)

① 野村親義 (共著)、「コラム：19世紀以降の二度のグローバリゼーション」、谷編『都市の歴史的形成と文化創造力』、清文堂、153頁-165頁、2011年3月

[その他]

ホームページ

<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/lit/staff/nomura.html>